

高蔵寺高校文芸部

これを読む皆々様へ

空に浮かぶ雲を、何かに例えたことなんて誰にでもあるでしょう。その雲は所詮雲で、時とともに消えてしまう夢のようなものです。過ぎ去ってしまう雲を見て、「ああ儂い」と嘆くのが嫌になったので、形を与えてあげようとしたのが工芸の始まりなのだろう。

文芸というものが始まったのも、日々常々の人を取り巻く環境から生まれる、人の感情の曖昧さに形を与えようとして始まったのだろう。ふと窓越しに雲を眺めながら存じ付いたので、こうして文章を認める次第でございます。

高校生活を想像してみてください。校舎中を鮮やかに彩る、ショッキングカラーの詰め合わせのような繁栄を。その中に見出される、強烈なまでの、しかし抽象的な、荒ぶる激情を。青春を。闘争を。愛情を。その渦中に生まれる妄想を。ただ雲のように次の日には忘れさってしまう感情の短命さを。

それではもったいない、誰かがそう呟いたから。文芸部が創部されたきっかけも、そんな雲のような淡い感情から生まれたのかもしれないですね。

我々文芸部は、二か月に一回のペースで「文芸部誌」なるものを発行しております。自分が感じたこと、考えたこと、

事実、虚構、それらを文字というドレスで着飾って、小説やら短歌やら詩といったものに変身させる、そんな部活でございます。

夏には愛知県全体の文芸部の集い、アートフェスタというものにも参加をさせてもらっております。

本館四階第一コンピュータ室で年中活動しております。自分に形をあげたいというその君！是非一度覗いて行ってください。

その掌に、文芸を。

文芸部一同より

